

今日は六月一日、多くの地域が梅雨を迎える季節です。梅雨の時期には雨が続いて日照時間が減り湿度が高まることから、体調不良や気分が落ち込むという方もいらっしゃるかもしれません。

雨がもたらす水は、生命にとって欠かせない要素の一つです。原始の生命は、海底深くもしくは陸上で熱い水が湧き出していた場所に誕生したという説が有力ですし、私たち人間を含む生物はその大部分を水が担っています。

人間の体は胎児で約九十%、成人になると約六十% が水だそうです。

私たちは、生まれる前からお母さんの羊水に守られ、生まれてからも水は食べ物や飲み物となって命を支えてくれています。つまり、水は私の一部なのです。

そして、地球上にある水の量は限られていて、循環をしています。たとえば、海の水は太陽の熱などによって蒸発し、水蒸気は環境によって雲となり、雲は雨を降らせます。その雨によって植物は育ち、動物はのどの渇きを癒やします。大地を潤し多くの命をはぐくんだ雨は集まって川となり、また海へと戻っていきます。

地球規模の大きな循環の中で、雨は私の一部となり、私の一部であった水はめぐりめぐって雨となるのです。雨と私はつながっているのです……。そう受け止めると私の中に雨を感じることができ、雨の中に私を見出すこともできるでしょう。

さまざまな環境問題が叫ばれて久しい昨今、海洋汚染や河川や大気汚染など、世界規模で大きな問題になっています。さらに日本では東日本大震災による原発事故が occurred。現代に生きる私たちにとって、環境問題は待ったなしの状況です。

雨と私がつながっているということは、自然と私たちがつながっているということでもあります。自然と私たちがつながっていることを感じられたとき、自然を自分のことのように愛お

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

しむことができるのではないのでしょうか。

梅雨の長雨を感じながら、現代の私たちの前に横たわるさまざまな問題を、我がことのように思いたいものです。

— 終 —